

打合せ記録

配布先 松谷基和教授		発行日	2025 年 1 月 15 日
		AC7 合同会社 福島先達山太陽光工事	
日時	2025 年 1 月 14 日（火）11：00～13：00		
場所	奥村組 現場事務所 1 階会議室		
議題	先達山太陽光発電所について議論及び質疑		
出席者 （敬称略）	松谷基和様（東北学院大学）、中田俊彦様（東北大学）、伊藤達也様（福島県議）、松浦陽一様、河本菜穂子 様、梅宮毅様 Amp：鈴木英樹、川端亮作、谷口朋良（Web）、Sherry Cheah（Web） 奥村組：大久保様、山路様、太田様、岡崎様、横山様、東芝プラントシステム：白川様、松本様（Web）		
提出資料	無し		
受領資料	無し		
ご確認欄			

記録	フォロー 要否 要：○ 否：×	担当	日限
1. 本会の録音について （Amp 鈴木） 過去に同様の会を開催した際に、録音した音源を恣意的に切り取りもしくは編集し、自身のブログや SNS に全く違う内容に掲載拡散されてしまった経緯があり、その内容が当方の意図や当日の内容と反していた事例が散見されたため、今回も同様に録音はご遠慮願いたい。当方で議事録を起案し共有しますのでそちらで録音の代替といただきたい。 （松谷教授） 録音が許されないことには、今回の対話に出席されなかった方々に内容をお伝えすることが難しい。拡散や SNS ブログなどへの掲載の意図はないので信用して、録音を許可いただきたい。 （Amp 鈴木） 拡散および SNS ブログなどへの掲載や関係者以外への内容を漏らす行為をしない旨のお話をいただいたので、その内容を含めた誓約書を後日お送りします。前後しますが今回出席された 6 名様の署名を以て録音を許可したいと考えます。 （河本様） 写真撮影についても NG か（ホームページに掲載予定）。 （Amp 鈴木） 撮影についても目的がどのようなものかによるが、基本的には先の理由同様、ご遠慮いただいています。 2. 本工事概要の説明 （奥村組 岡崎所長より、大画面 ppt を使用） ・現状のリアルタイムカメラ画像説明 ・案件概要説明（場所、進入路、規模、調整池詳細、許可可から着工までの経緯など） ・許認可内容説明（森林法許可内容、完成予想俯瞰図、現況工事写真提示など） ・防災計画説明（県への週刊報告など） 3. 質疑応答 （松谷教授） 事業会社の事業体制について、AC7 合同会社と Amp 株式会社の関係を説明いただきたい。 （Amp 鈴木） 本事業地の取得、許認可の取得などを Amp が行い、Amp は事業主ではなく運転開始までの管理を AC7 から委託されている会社となります。 （松谷教授） 合同会社を組成して Amp が事業を直接行わないのはなぜか。 （Amp 鈴木） 太陽光事業や不動産事業などでも行われている一般的な手法であります。	要	Amp/松谷様	即

記録	フォロー 要 否：○ 否：×	担当	日限
【11:00 開始】 （松谷教授） 環境影響評価において「長期にわたって保有運営する事業主」という点が評価されているが、今回はそうではないのはなぜか。 （Amp 鈴木） 保有運営するパターンと投資家を募りお引渡しする 2 パターンがあり、今回は後者となります。 （松谷教授） 今回 Amp 社は出資にはかかわっていないという理解か。 （Amp 鈴木） 現在はそのようになります。 （松谷教授） 新生銀が融資したというリリースには Amp が事業主という記述があるが、変更となっているという理解か。またそれを行政は承認しているのか。 （Amp 鈴木） 出資構成が変化したことは承認されている。 （松谷教授） なぜ変更になったことを公にリリースなどしないのか。 （Amp 鈴木） 合同会社の出資者が変わっていくことは一般的であります。 （松谷教授） 一部メディアに報じられている内容では出資者変更には言及がない。なぜその点をお話しされないのか。 新生銀行が信頼できる企業（Amp）として融資したとリリースしているわけで、その出資が変わることはオープンにしないといけないのではないか。情報が隠蔽されて隠されているイメージを持っている。新生銀行も融資しているちゃんとした案件ということを今後も PR された方が良いのではないか。 （Amp 鈴木） メディア取材かつ市民の方から問い合わせが来た際には適宜対応させていただいている。本件に関する内容もすべて守秘義務違反に抵触すること以外はお答えさせていただいている。しっかりとした案件ということも今後も PR していく。 （松浦様）（→以降、Amp 鈴木） ・本件は住民への説明範囲が狭く足りないと思われる。 →林地開発の許可取得時に県と相談しながら、説明会の必要地域を決めて実施した。 ・この場所を適地として選択した理由を教えてください。 →FIT 認定取得された案件であったためです。 ・土木工事について、湧水対策、伐根木の処理は如何様に行っているか。 （盛土の中に埋めたりしていないか。） →林地開発の許可の中で県と協議しながら、法律に則して設計施工している。毎週県も施工状況を検査してくださっている。（盛土の中に埋めたのはおそらく、いわきの案件と思われるが、当案件は信頼できるゼネコンである奥村組が施工している。）伐採木は保健所の許可を得て現場中間処理施設を設置し、産廃として搬出している。（マニフェストあり） ・20 年後はどうなる予定か。 →FIT 売電終了後は、相対契約を民間企業間で電力の売買を行い、継続して設備を更新しながら事業を実施していく案件が殆どと思われ、当案件もそのようになると考えています。 ・オーバーフローへの計画はどうなっている。 →調整池は林地開発の許可の中で適正な容量を確保されている。運営中も土砂などが流入するの で、浚渫実施し適正容量を確保するオペレーションを策定している。 （松浦様） 狭い範囲での説明会なり周知だった認識なので、観光資源としての吾妻山が良くて居住している我々からすると、（法律などさえ）クリアすれば良いとする考えに問題があると考えている。また、県や市の行政の担当者はレベルが低いので苦情などの内容を予測理解しないで許認可していると思ってるし怒りを覚えている。誰に聞いてもそういうことを言う。緑化しても牧場と同じで手を加えているので危険である。			

コメントの追加 [SC1]: これ、MTG 中に気になったのですが、行政は本当にご存知なんですかね？

記録	フォロー 要否： ○ 否：×	担当	日限
（松谷教授） 林地開発許可を得たことですべてが正当であると考えていると思うが、許可を得る段階の森林審議会の中で景観について「丸裸の湖ではなく薄くラインが入ったように見える」と記述されている。今の状態との乖離をどのようにお考えか。 （Amp 鈴木） 法律上許可を得た手法により緑化などを行っているが現在は工事中であるため、景観に関しては完成してからに予測に近づく形になろうと考えている。提出したフォトモンタージュは予測なので完全に一致はしないと思っている。本来はパネル施工後に緑化施工の予定だったが、市内から見える景観に配慮して工事中ではあるが緑化作業を実施している。パネル設置後も再度緑化吹付も行う予定。 （松谷教授） 工事中にハゲ山ができるという公式発表はしたのか。 （Amp 鈴木） 存じ上げないため、別途回答いたします。 （梅宮様）（→以降、Amp 鈴木） ・防災計画を県に週間で提出されているというが、提出だけではなくコミュニケーションも取られているのか。 →提出以外にもコミュニケーションも取っている。 ・フォトモンタージュ説明の「薄っすらと黒い線のように見える」というのはどう思われるか。 →当時説明した人間が「見える場所によっては薄っすらと線のように」という表現を引用した認識だ。福島駅から見えなかった関係でその場所からはないのが実情である。福島市とも同様の話をしている。環境影響評価のフォトモンタージュについても日本気象協会というプロの集団に委託しているのでしっかりとしたもののできていると思っている。 ・わざと見えにくい場所からフォトモンタージュを作成したと私は思っている。 （松谷教授） 住民を軽視しているので意図的に隠して、見にくいところからフォトモンタージュ作成したと思っている。この軽々しく扱っている許認可を県や市が通すから、我々がこうして動いている次第である。 （伊藤議員） 個人的な立場で言わせてもらうが、私ははらわたが煮えくり返ってはげ山を見るとがっかりしているし、行くところいところで苦情が出て中止させてくれと陳情されている。なお木幡市長は本件は過少報告と言っている。市民の総意としては中止して原状回復して普及してほしいが、最終計画としてどうなるか注視して行きますし、今後もこういう会は継続して実施してほしい。 （中田教授）（→以降、Amp 鈴木） ・過去の説明会実施証左を見せてもらえるか。 →説明会の開催記録などは県に提出済みなので開示請求いただければご覧になられます。 ・高湯温泉協会にも説明会は実施しているか。 →実施済みで、協定書締結済みです。 ・FIT 当初取得した法人名を教えてください。 →調査して 開示可否を確認検討のうえ別途回答します。 ・伐採木のチップ化をした中間設備はどこにあるのか。 →（奥村組 岡崎所長）福島市保健所に許可を取り、場内に破砕機を 2024 年春ごろまで設置していた。幹は 2m 程度に段切りし、枝や根は現地でチップ化して搬出しました。 ・反対する会などという団体に対して何を行ったか。 →いろいろな団体様があり説明、地域貢献などという形をとり協定書締結を行って合意に至っている。先に松浦様に「地域が狭い」と指摘をいただいたが、行政に相談しながら何度も協議をいろいろな地区や団体と重ねて合意形成し、許認可に至っている。許認可取得後も造成が始まり、景観的に見苦しくなってきたため市や県に苦情が増えた、結果、私がすべて丁寧に対応している。ご理解が得られるところまで行くことは少ないが、とにかく安全に工事を進めることでご安心いただけるよう努力している。 ・ホームページを作成して PR することはしないのか。	要	Amp	即
	要	Amp	即

記録	フォロー 要否：○ 否：×	担当	日限
→先達山太陽光発電所で 2024 年 9 月 30 日に作成済み、問い合わせフォームが来週でき次第、福島市特設 HP にはリンクを貼らせていただく予定。 ・鈴木は担当いつからか。過去 AC7 合同会社の担当者は何人いたのか。 →鈴木は 2024 年 2 月から、過去は 3 人程度の担当がいた。 ・このように大騒ぎしている福島県の案件は初めてなのか。 →業界一般的に森林伐採や造成を伴う案件は、熱海の件も関係しているような苦情をいただく傾向になるのではないのでしょうか。一方で行政には固定資産税増収や、地域には工事中の雇用、運転開始後の管理業務の雇用など、地域に貢献する経済効果があると思っている。 ・行政と共同出資などで計画されれば、ここまでのことにはならなかったかもしれない。融資に地元の地方銀行も参画している。私たちは産業経済にプラスになるように考えていかなければならないと思っている。 →報道関係者はこちらの意図を汲んだ記事にはなりえず、曲げられた記事になりがち。残念であると思っている。皆様の意見を直接意見意見を交わすことで理解を深め、当社としてはできることは行っていき、今後も対話の機会は断りません。 (Amp 谷口) まずは対面で参加できずにお詫び申し上げます。皆様の意見をいただきできることを行っていきたいと考えています。 (中田教授) 今回のデスクの配置に関しては違和感がある。ラウンド方式で対等な方式でお願いしたい。 (河本様) 立場上、守秘義務などあるが、鈴木さんの誠意は感じた。今後もコミュニケーションを取っていきたい。 (松谷教授) 次回も段取りしていただきたいのと、現場の視察も考え直してほしい。 (Amp 鈴木) 土木工事が佳境のため安全の観点から今は難しいが、2025 年 3 月末くらいにはご案内できようかと思っています。これは依頼のあった皆様にお願していることであり公平の観点からもお願いします。 (松谷教授) 土木工事の最中を見たいのであるので、県などに同行する段取りを取れば、私も入場できるということで理解しました。 (Amp 鈴木) 中田先生からのラウンド方式の座席配置についても、ありがたい指摘ですので次回から取り入れたいと思います。本日はありがとうございました。 【12:47 散会】 以上			